編集後記

昨年度に本誌編集委員会メンバーが一部交替して間もなく、編集委員会事務と本誌発行実務を委託していた日本学会事務センターの破産という事態に見まわれた。これについては本欄で既に報告してあるが、理事会の努力によりセンターにあった未収金を本誌発行費一号分から差し引くことで、一切の損失なく処理がついた▼とはいっても、その後は臨時の発行体制が続いた。そして本号より（株）ＮＴＴデータシステムサービスが発行実務に参画することとなった。これに伴って発行費用等の見直し（本当の意味での合理化）もされ、本誌は順調に発行される目途がたつに至った。一段落にホッとしている▼本年六月二十五・二十六日の学会総会は、学術大会一般演題が七十五題を数え、大盛況が予想される。例年のように当誌編集委員会が総会抄録号全体の校正を担当したが、一委員あたりの受持数も増えて校正作業が満点とは申せず、会員からご不満の声が投げかけられそうである。未知の領域があって苦闘したことで、不十分さをおゆるしいただきたい▼なお本号は例年六月二十日の発行であるが、それでは総会直前に会員諸氏のお手元に届くことになってしまう。そこで本来よりいささか早く会員各位に届くようにした。加えて、従来は論文著者の所属を文末に載せていたが、本号より著者氏名の次行に記すよう変更したことを追記しておきます。

（中西　淳朗）